

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



甲州種の「ツルヒケ」とは？



- 甲州種において収穫期の1ヶ月前付近から穂軸が枯れ、果粒が軟化・萎縮する症状を「ツルヒケ」と呼んでいます（写真）。
- 健全な果房が減り、**収量は低下**します。同時に果汁中の**糖度等成分量が低下**するので、ワインの品質も低下してしまいます。
- **樹勢が強い樹で着果量が多い**と発生する傾向があります（図）。
- さらに収穫期に**降雨**が多く、水分条件が変動すると発生が助長されます。
- 当面、**剪定や窒素施肥量削減**による樹勢の適正化とともに過多にならないよう**着果量**を調整することが発生対策となります。写真 ツルヒケ発生果房(甲州)

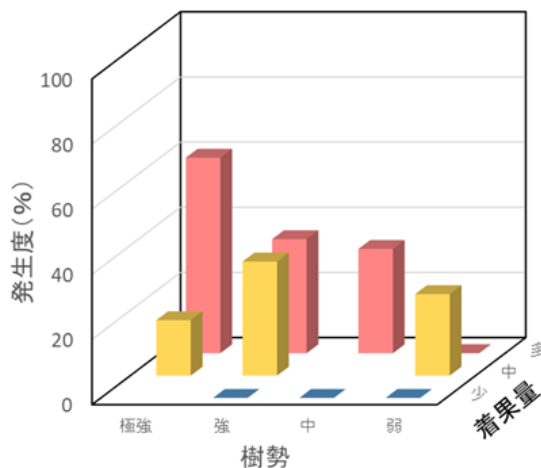


図 樹勢、着果量とツルヒケ発生の関係
(甲州、棒なし部は該当調査樹がなかった)



果実を見なくても果皮色が分かる



- ブドウ研究は**遺伝子診断の手法**を取り入れ進んでいます
- **果皮色**は品種により様々な色彩を示します（図）。
- この品種間差異は主に **myb(ミブ)ハプロタイプ**という遺伝子の違いにより果皮色に現れます。
- 新品種を育成する際に、交雑により得られた実生(種から育てた苗)は**親と同じ果皮色になるとは限りません**。
- 果樹試験場では、果実をつける前の幼苗に対して本手法を用いて診断し、目標とする果皮色を示す個体を**早期に効率的に獲得**しています。
- 温暖化が進む現状では**着色良好な新品種の登場**を誰もが待ち望んでいます。他の形質に対しても様々な新手法が適用されています。今後の成果を期待しましょう。



図 様々なブドウの果皮色
(植原葡萄研究所 HP)